

## (2) 資産に含まれる文化財

## 整理表

## 加賀地域

	名称	主体	種別	面積	要約
1	旧小倉家住宅	国	重要文化財	293㎡	江戸時代初期に建てられた土壁造り、栗の小羽板葺き石置き屋根、二階建ての建物である。白山山頂における信仰を実質的に支えた白峰の山村農家の特色を示す代表的建築である。県が民俗資料館において良好に管理している。
2	太田の大トチノキ	国	天然記念物	約1,100㎡	幹周径で全国一を誇る。白山麓ではその種子を食用としており、地域の食文化史を知るうえで貴重である。
3	御仏供スギ	国	天然記念物	1,143㎡	南北朝時代初期に禅宗の祇陀寺を開いた祖継大智が植えたと伝えられる。当時、修験場のあった吉野への新興の禅宗進出を示す重要な資産である。
4	鳥越城跡 附二曲城跡	国	史跡	286,620㎡	室町時代に加賀地方は百年にわたり一向一揆による世界史上画期的な「百姓ノ持チタル国」が成立した。鳥越城跡は、白山麓の一向一揆の拠点であり、織田信長に最後まで抵抗し、1580年に陥落した城跡。現在史跡公園として整備されている。
5	旧杉原家住宅	石川県	建造物	1,109㎡	江戸時代末期に建てられた土壁造り、栗の小羽板葺き石置き屋根、三階建て建物である。天領時代には庄屋・組頭を勤めた白峰の旧家の建物で、1棟の建物規模としては県内最大級である。県が民俗資料館において良好に管理している。
6	旧織田家住宅	石川県	建造物	708㎡	岐阜県白川の合掌造り建物に対応する白山麓の土壁造り建物である。明治時代初期に建てられた小羽板葺き石置き屋根、三階建ての建物で、代々商業・製糸業等が営んだ白峰を代表する貴重な商家建物である。県が民俗資料館において良好に管理している。
7	八坂神社本殿	白山市	建造物		元牛首社と呼ばれ、牛頭天王を祀り、薬師三尊を本地仏とする。文政5年(1822)に上棟された入母屋造、柿葺の建物で、建仁寺の和様の流れをくむ。白山山頂の信仰を実質的に支えた白峰の伝統的建造物群の一角を占める。
8	白山比咩神社 境内参道	白山市	名勝		全国に約2,700社を数える白山神社総本社の表参道である。延長230mにわたり、鬱蒼とした木立(9、10を含む)が生い茂り、神域にふさわしい景観である。当神社は、国宝剣、国重要文化財10件の他、多数の文化財を所有する。
9	白山比咩神社 の老スギ	白山市	天然記念物		市指定名勝白山比咩神社境内参道の西側に位置する老スギである。胸高径6.8m、樹高42mを測り、樹齢800年といわれる。
10	白山比咩神社 の大ケヤキ	白山市	天然記念物		白山比咩神社神門前の参道西側に位置する大ケヤキである。胸高径5.3m、樹高25mを測り、樹齢1,000年といわれる。
11	白山	(未指定)	(名勝・ 文化的景 観)		日本三名山の一つであり、日本を代表する自然が数多く良好に残される。養老元年に開かれたと伝えられ、白山信仰の霊峰として仰がれる。白山国立公園の特別保護地区であり、ユネスコの生物圏保存地域にも指定される。
12	白山山頂・禅 定道遺跡群	(未指定)	(史跡)		日本最高所の信仰遺跡で、山頂周辺及び禅定道沿いに修行窟、行場跡、堂跡、室跡、積石塚等、多くの信仰関連遺構が残る。積石塚の一つである四塚は、径12～16m、高さ3mの塚を最大に、6基が確認できる。
13	白峰の伝統的 建造物群	(未指定)	(伝統的建 造物群)		白峰集落は、かつて山頂の白山信仰を支えた村であり、現在は白山登山の拠点となる。重要文化財「銅造十一面観音立像」を含む白山下山仏等を安置する林西寺や、山岸家住宅等豪雪地帯を代表する古い町並みを良好に残す。